

令和元年度 全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査結果の分析について

平成31年4月18日に中学1・2年生を対象に「佐賀県学習状況調査」、中学3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。

関係教科及び学習・生活に関する調査結果を分析し、改善に向けた取り組み事項をお知らせします。今後、さらに生徒の学力向上を図っていききたいと考えています。

1年生の傾向と指導事項

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国語	全体の正答率は県平均を下回っている。到達度においても、十分達成している生徒が少なく、要努力の生徒が多い。内容・領域別に見てみると、「話す・聞く」「書く」「語句に関する知識」はおおむね達成しているが、「読む」「漢字の書き」については、かなり落ち込んでいる。	「漢字の書き」については、毎日の課題を充実させることと小テストを効果的に組み合わせる力をつけていきたい。「読む」ことは、文章のジャンル別（小説、随筆、説明文）にどのように読むのか「読み方」の指導を充実させていきたい。朝読書やコラム学習を継続させ、文章を読むことへの抵抗を少なくしていくとともに、読むことへの関心を高めることを目指したい。
数学	教科全体の到達度分布を見ると、十分達成が県平均に比べ少なく、要努力の生徒が多い。領域別では全領域で県平均より下回っており、特に「量と測定」の落ち込みが大きい。観点別でも全観点で県平均を下回っており、特に「考え方」の落ち込みが大きい。問題別では、分数に関するものと、比較的長文を読んで数量の関係を理解する必要のある問題の正答率が特に低い。	数式の領域では、分数に苦手意識をもつ生徒が多いので、新しい内容を学習する際にはまず整数の範囲で理解させる。一方、折に触れて分数の学習を繰り返すことにより、その概念を理解させ、計算の習熟を図る。関数や図形では、小学校の学習内容を復習することにより既習事項の概念形成を促しながら、中学校内容の学習につなげていきたい。

2年生の傾向と指導事項

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国語	全体の正答率は県平均をやや下回った。内容・領域別正答率を県の正答率と比較してみると、「漢字の読み」「語句に関する知識」は県をやや上回り、「話す・聞く」「読む」はやや下回った。「書く」「漢字の書き」では県を大きく下回った。また、「読む」の「活用」に関する問題においては無解答率が高かった。	「書く」については、授業の中に書く活動を意図的に取り入れ、単元ごとに様々な文章を書くことに取り組んだ。今後は示された条件を意識して、条件作文を書く活動に取り組んでいく。また、「学び合い」で生徒同士がお互いの文章を添削したり推敲したりする場を設定し、書くスキルの向上を図る。漢字に関しては、毎日の課題に継続して取り組むとともに、小テストで確認し定着を図りたい。また、学校生活の様々な場面で文章を書くときに、既習の漢字を意識して使わせるようにしたい。
数学	全体として県平均を下回った。内容・領域別の正答率を見ても、全ての領域で県平均を下回り、特に「関数」の分野の正答率が低かった。観点別の正答率をみると、「見方や考え方」において、到達基準のおおむね達成にも到達していなかった。	TT授業を実施し、生徒のつまずきにいち早く対応できるようにしている。学び合い活動を適宜入れながら、多くの考えを共有したり教え合ったりする雰囲気を作る。また、単元内容の定着のために小テストや演習の時間をとる。また、毎週木曜日にワークの課題を出すことで、学習習慣や基礎学力の定着を図りたい。

3年生の傾向と指導事項

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国語	全体の正答率は、県平均を下回る結果となったものの、「書くこと」においては県平均を上回り、特に「根拠を明確にして書く」問題では全国平均も上回っていた。一方で、県平均を大きく下回ったのは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」である。封筒の宛名書きの問題では、3割近くの生徒が不正解もしくは無回答となっており、日常生活における手紙を書く習慣の廃れも影響していると考えられる。	まずは、生徒の語彙の拡充をめざし、教科書以外でも様々な文章に出会えるよう、毎週の課題を工夫する。特に、説明文などの論理的構成の文章を読み重ねることで、文章全体の内容や要点を上手く読み取れるようにしていく。また、表現技法や仮名遣いなど、既習事項でも未だに定着が不十分なものが見られるため、漢字以外でも小テストを加えることで、様々な事項での知識の定着を図る。活用問題にも適宜取り組ませ、資料や対話での相手の発言を的確に読み取る力をより一層つけていきたい。
数学	全体の正答率は、県平均を下回る結果となったが、「関数」の領域は県平均を上回り、「確率」の問題は全国平均を上回ることができた。これは昨年度より明らかに向上した結果であった。また、無解答率が高かったのは、「反比例の表から、xとyの関係を式で表すこと」、「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる」であった。	数学の基礎力となる「知識・理解」「技能」の向上のために、授業においてはチーム・ティーチングでの指導を行う。無解答率を低くするために、「学び合う活動」の時間を十分確保し、他者に説明する場面設定を授業中に確実に実行する。また、週末やテスト前には問題集やプリントを用い、既習内容の復習を徹底し、学習内容の定着、数学力の向上を図る。
英語	全体の正答率は、県平均を下回る結果となった。また、全ての領域においても、県平均を下回った。特に「聞くこと」「話すこと」の分野の正答率が低かった。一方で、「書くこと」においては「与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文」と「学校を表す2つのピクトグラムの案を比較して、どちらが良いか理由とともに意見を書く」問題は県平均を上回った。	基礎学力の定着のために、課題の出し方を工夫し、家庭学習の充実を図る。授業においては既習事項の復習に重点をおいた帯学習を行う。小テストを計画的に実施し、言語・知識の定着を図る。また、チーム・ティーチングの特性を活かして、教師がすぐに添削や助言をすることによって、「書くこと」「話すこと」の力を向上させていきたい。

生徒意識調査の結果分析(1年)

【 数値が特に良かった項目 】

調査の項目	分析と改善に向けた具体的取り組み事項
① 人の役に立つ人間になりたいと思う	<p>①～⑤の項目では、「当てはまる」と答えた生徒が県平均を上回っている。特に①②から、子どもたちが、自分の将来像を前向きにとらえ、役に立つ人間になりたいと考えていることが分かる。また、③④の項目から、本校が力を入れている授業のスタイルである「授業のめあての提示と振り返り」が生徒にも浸透してきているようすがうかがえる。⑤の項目から、社会の学習で、子どもたちの将来の社会生活に向けて学習していることが、活用に対する意識を高くしたとうかがえる。</p> <p>一方で①の項目において、県平均を下回っている。人前で自分の考えを話すことを苦手と感じていることが分かる。他の項目から、家庭学習の時間が確保されておらず、授業の復習ができていない、テストのやり直しもできていないことが分かる。家庭学習の時間を定着させるために、学習計画やテスト勉強ノートの継続的指導を行っていきたい。学習に対しての意欲や自己認知はあるが、行動が伴わないので、家庭とも連携し改善をしていきたい。</p>
② 将来の夢や目標を持っている	
③ 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思う	
④ 授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いていると思う	
⑤ 社会の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	
【 数値が特に悪かった項目 】	
調査の項目	
① 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だと思う	
② 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	
③ 学校の授業の復習をしている	
④ テストで分からなかった問題や間違えた問題についてやり直しをしている	
⑤ 普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか	

生徒意識調査の結果分析(2年)

【 数値が特に高かった項目 】

調査の項目	分析と改善に向けた具体的取り組み事項
① 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている	<p>①～⑤の項目で「当てはまる」と答えた生徒が県平均を上回っている。特に、①の振り返り活動は県平均を大きく上回っており、⑤の項目とあわせて、本校が力を入れている授業のスタイルである「授業のめあての提示と振り返り」が生徒にも浸透してきている様子うかがえる。</p> <p>また、②と③の項目から、授業の中で学び合い活動に積極的に取り組んでいることが読み取れる。</p> <p>一方で、①～⑤の項目においては、県平均を大きく下回っている。特に①～③の項目から、家庭における学習時間が県平均に達していないと考えられる。これは、他の項目において「携帯電話の使用時間が県平均よりも長い」という結果がでていることなどから、家庭での時間の使い方がうまくできていないと考えられる。また、分からなかった問題や間違えた問題のやり直しをしなかったり、苦手な教科を避けたりするなど、自分の弱点を克服しようとする意志が弱いと考えられる。</p> <p>④の項目については、ほぼすべての授業において電子黒板の使用が浸透しており、生徒が特に目新しさを感じなくなっているためと考えられる。以上のことから、家庭とも連携しながら、携帯電話の使い方や家庭での時間の使い方などを確認し、計画的に家庭を定着させていきたい。また、苦手な問題などがあれば、気軽に質問ができる雰囲気をつくり、苦手な問題や教科にも意欲的に取り組むことができるよう支援していきたい。</p>
② 授業では、生徒間で話し合う活動をよく行っている	
③ 友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができる	
④ 国語の授業はよくわかる	
⑤ 授業の中で目標が示されている	
【 数値が特に低かった項目 】	
調査の項目	
① テストで分からなかった問題や間違えた問題についてやり直しをしている	
② 学校の授業の復習をしている	
③ 苦手な科目の勉強をしている	
④ 電子黒板やパソコンを使った授業を受けるのは楽しみだ	
⑤ 「総合」では、自分で課題を立てて情報を集め、調べたことを発表する活動をしている	

生徒意識調査の結果分析(3年)

【 数値が特に高かった項目 】

調査の項目	分析と改善に向けた具体的取り組み事項
① 新聞をよく読んでいる	<p>①の項目では「当てはまる」と答えた生徒が県や全国平均を5ポイント近く上回り、毎週実施している「新聞コラム」の効果が現れている。また、②～⑤の項目では「当てはまる」「よく当てはまる」と答えた生徒が県や全国平均を上回っている。学活や道徳をはじめ、全授業でホワイトボード等を活用した話し合い活動に取り組んでいることから、話し合いを通し課題解決に取り組もうとしている生徒が8割近くにのぼる結果に結びついていると考えられる。特に毎時間生徒同士での学び合う活動を入れている数学では「わかる」と答えている生徒が他教科より増えたことから、生徒同士での活動の有用性がうかがえる。</p> <p>一方で、①～⑤の項目においては、県平均を下回っている。ICT活用に関しては、他県に比べ電子黒板等が浸透していることが起因し、利用度は全国平均より大幅に高いものの生徒の活用への意欲は全国平均より低い。また、社会参画を熱望する生徒や外国に興味のある生徒は1割程であり、対人関係が狭まりつつある現代のコミュニティの影響があると考えられる。夢や目標があり、社会貢献を願う生徒が少ないことから、今後は生徒の自己肯定感を高める活動を仕組むことが必要である。</p>
② 授業でコンピュータなどのICTを利用している	
③ 学級で話し合い、互いの意見のよさを生かしてよりよい解決方法を決めている	
④ 道徳の授業で考えを深めたり話し合ったりする活動に取り組んでいる	
⑤ 数学の授業の内容がわかる	
【 数値が特に低かった項目 】	
調査の項目	
① 将来の夢や目標をもっている	
② 人の役に立つ人間になりたい	
③ 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある	
④ 外国の人と友達になったり、外国についてもっと知ったりしてみたい	
⑤ 授業でコンピュータなどのICTを活用したい	

生徒意識調査の結果分析(1年)

【 数値が特に良かった項目 】

	調査の項目	分析と改善に向けた具体的取り組み事項
①	人の役に立つ人間になりたいと思う。	<p>①～⑤の項目では、「当てはまる」と答えた生徒が県平均を上回っている。特に①②から、子どもたちが、自分の将来像を前向きにとらえ、役に立つ人間になりたいと考えていることが分かる。また、③④の項目から、本校が力を入れている授業のスタイルである「授業のめあての提示と振り返り」が生徒にも浸透してきているようすがうかがえる。⑤の項目から、社会の学習で、こどもたちの将来の社会生活に向けて学習していることが、活用に対する意識を高くしたとうかがえる。</p> <p>一方で①の項目において、県平均を下回っている。人前で自分の考えを話すことを苦手と感じていることが分かる。他の項目から、家庭学習の時間が確保されておらず、授業の復習ができていない、テストのやり直しもできていないことが分かる。家庭学習の時間を定着させるために、学習計画やテスト勉強ノートの継続的指導を行っていきたい。学習に対しての意欲や自己認知はあるが、行動が伴わないので、家庭とも連携し改善をしていきたい。</p>
②	将来の夢や目標を持っている。	
③	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思う。	
④	授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いていると思う。	
⑤	社会の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。	

【 数値が特に悪かった項目 】

	調査の項目	分析と改善に向けた具体的取り組み事項
①	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だと思う。	<p>一方で①の項目において、県平均を下回っている。人前で自分の考えを話すことを苦手と感じていることが分かる。他の項目から、家庭学習の時間が確保されておらず、授業の復習ができていない、テストのやり直しもできていないことが分かる。家庭学習の時間を定着させるために、学習計画やテスト勉強ノートの継続的指導を行っていきたい。学習に対しての意欲や自己認知はあるが、行動が伴わないので、家庭とも連携し改善をしていきたい。</p>
②	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。	
③	学校の授業の復習をしている。	
④	テストで分からなかった問題や間違えた問題についてやり直しをしている。	
⑤	普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか。	

生徒意識調査の結果分析(2年)

【 数値が特に高かった項目 】

	調査の項目	分析と改善に向けた具体的取り組み事項
①	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。	<p>①～⑤の項目で「当てはまる」と答えた生徒が県平均を上回っている。特に、①の振り返り活動は県平均を大きく上回っており、⑤の項目とあわせて、本校が力を入れている授業のスタイルである「授業のめあての提示と振り返り」が生徒にも浸透してきているようすがうかがえる。また、②と③の項目から、授業の中で学び合い活動に積極的に取り組んでいることが読み取れる。</p> <p>一方で、①～⑤の項目においては、県平均を大きく下回っている。特に①～③の項目から、家庭における学習時間が県平均に達していないと考えられる。これは、他の項目において「携帯電話の使用時間が県平均よりも長い」という結果がでていることなどから、家庭での時間の使い方がうまくできていないと考えられる。また、分からなかった問題や間違えた問題のやり直しをしなかったり、苦手な教科を避けたりするなど、自分の弱点を克服しようとする意志が弱いと考えられる。④の項目については、ほぼすべての授業において電子黒板の使用が浸透しており、生徒が特に目新しさを感じなくなっているためと考えられる。</p> <p>以上のことから、家庭とも連携しながら、携帯電話の使い方や家庭での時間の使い方などを確認し、計画的に家庭を定着させていきたい。また、苦手な問題などがあれば、気軽に質問ができる雰囲気をつくり、苦手な問題や教科にも意欲的に取り組むことができるよう支援していきたい。</p>
②	授業では、生徒間で話し合う活動をよく行っている。	
③	友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができる。	
④	国語の授業はよくわかる。	
⑤	授業の中で目標が示されている。	

【 数値が特に低かった項目 】

	調査の項目	分析と改善に向けた具体的取り組み事項
①	テストで分からなかった問題や間違えた問題についてやり直しをしている。	<p>①～⑤の項目においては、県平均を大きく下回っている。特に①～③の項目から、家庭における学習時間が県平均に達していないと考えられる。これは、他の項目において「携帯電話の使用時間が県平均よりも長い」という結果がでていることなどから、家庭での時間の使い方がうまくできていないと考えられる。また、分からなかった問題や間違えた問題のやり直しをしなかったり、苦手な教科を避けたりするなど、自分の弱点を克服しようとする意志が弱いと考えられる。④の項目については、ほぼすべての授業において電子黒板の使用が浸透しており、生徒が特に目新しさを感じなくなっているためと考えられる。</p> <p>以上のことから、家庭とも連携しながら、携帯電話の使い方や家庭での時間の使い方などを確認し、計画的に家庭を定着させていきたい。また、苦手な問題などがあれば、気軽に質問ができる雰囲気をつくり、苦手な問題や教科にも意欲的に取り組むことができるよう支援していきたい。</p>
②	学校の授業の復習をしている。	
③	苦手な科目の勉強をしている。	
④	電子黒板やパソコンを使った授業を受けるのは楽しみだ。	
⑤	「総合」では、自分で課題を立てて情報を集め、調べたことを発表する活動をしている。	

生徒意識調査の結果分析(3年)

【 数値が特に高かった項目 】

	調査の項目	分析と改善に向けた具体的取り組み事項
①	新聞をよく読んでいる。	<p>①の項目では「当てはまる」と答えた生徒が県や全国平均を5ポイント近く上回り、毎週実施している「新聞コラム」の効果が現れている。また、②～⑤の項目では「当てはまる」「よく当てはまる」と答えた生徒が県や全国平均を上回っている。学活や道徳をはじめ、全授業でホワイトボード等を活用した話し合い活動に取り組んでいることから、話し合いを通し課題解決に取り組もうとしている生徒が8割近くにのぼる結果に結びついていると考えられる。特に毎時間生徒同士での学び合う活動を入れている数学では「わかる」と答えている生徒が他教科より増えたことから、生徒同士での活動の有用性がうかがえる。</p> <p>一方で、①～⑤の項目においては、県平均を下回っている。ICT利活用に関しては、他県に比べ電子黒板等が浸透していることが起因し、利用度は全国平均より大幅に高いものの生徒の活用への意欲は全国平均より低い。また、社会参画を熱望する生徒や外国に興味のある生徒は1割程度であり、対人関係が狭まりつつある現代のコミュニティの影響があると考えられる。夢や目標があり、社会貢献を願う生徒が少ないことから、今後は生徒の自己肯定感を高める活動を仕組むことが必要である。</p>
②	授業でコンピュータなどのICTを利用している。	
③	学級で話し合い、互いの意見のよさを生かしてよりよい解決方法を決めている。	
④	道徳の授業で考えを深めたり話し合ったりする活動に取り組んでいる。	
⑤	数学の授業の内容がわかる。	

【 数値が特に低かった項目 】

	調査の項目	分析と改善に向けた具体的取り組み事項
①	将来の夢や目標をもっている。	<p>一方で、①～⑤の項目においては、県平均を下回っている。ICT利活用に関しては、他県に比べ電子黒板等が浸透していることが起因し、利用度は全国平均より大幅に高いものの生徒の活用への意欲は全国平均より低い。また、社会参画を熱望する生徒や外国に興味のある生徒は1割程度であり、対人関係が狭まりつつある現代のコミュニティの影響があると考えられる。夢や目標があり、社会貢献を願う生徒が少ないことから、今後は生徒の自己肯定感を高める活動を仕組むことが必要である。</p>
②	人の役に立つ人間になりたい。	
③	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。	
④	外国の人と友達になったり、外国についてもっと知りたい。	
⑤	授業でコンピュータなどのICTを活用したい。	